

○事業所名	放課後デイゆりのき		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月25 日		～ 令和7年11 月25 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	令和7年 10月25 日		～ 令和7年11 月25 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	配置職員数が多い。	多職種連携。それぞれの知識を出し合い、考え合いながらより良い療育に繋げていく。	職員が気兼ねなく考えを話せるカンファレンスの時間を充実させる。
2	送迎あり。車椅子ユーザー、医療的ケア児も事業所の車で送迎可能。	児の障害特性に沿った車の配車、児の特性に対応できるような人員での送迎、看護師同乗での送迎。看護資格保有者による送迎。	安全に送迎が出来るように日頃から車のメンテナンスを行う。時間に終われた送迎にならないようにスケジュールを組む。
3	様々な障害特性の児が利用できる。障害児への差別や区別化していない事業所。「みんな一緒」をモットーに唯一無二の事業所。	どの児も利用していただく事を基本とする。様々な障害特性について職員一同学ぶ姿勢でいる。	障害特性、医療的ケアについて、職種に関係なく知識を深めれるように事業所内研修や外部研修を取り入れる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	軽度と言われる障害児の利用がないため、そのような児に対する療育の提供スキルが低い。	軽度の障害の児も利用希望があれば受け入れていく。	重度障害児通所支援の事業所と誤解されている事が多い。正しく周知していく。障害の軽重関係なく取り組める療育を考えていく。
2	車椅子ユーザーの利用も多く、部屋が手狭になる日がある。		一日の車いすユーザーの利用割合と他の利用児との兼ね合いを見ながらスケジュールリングしていく。
3	男性職員がいない。職員が年を重ねてきた。	正規職員を増やすほどの経営状態ではない為、男性からの求人募集がない。	タイミングがあれば正規職員募集。